

岩野天満宮

大字上大隈字岩野にあり、祭神は菅原道真、明治四十一年火災のため、社が焼失し、現在の社殿は再建されたものである。

三月二十五日と九月二十五日の祭日には、各隣組が当番となり、氏子はお弁当を持参して、昼籠を行う。

また七月二十四日、二五日には夏越祭が行われ、十二月三日には年越祭がある。境内には、老楠が亭々と空をつき、その下に五穀神も祀られている。



御霊神社

大字大隈字丸山の北山麓にあり、祭神

は、早良親王、伊豫親王、吉備大臣、父屋宮田丸、橘逸勢、藤太夫人、藤原廣嗣、火雷神で、明治五年十一月三日村社に定められた。

例祭は、三月四日祈年祭、七月四日大祓祭、七月二三日から二五日まで夏越祭、十月十四日は宮座、十一月二十四日新穀祭などが行われている。

本殿、渡殿、拜殿の社殿があり、太宰府御供屋の蔵書に足利尊氏が、康永四年（一三四五）田地寄進したとの状がある。また境内には、大山祇神社、天満神社、愛宕神社、川伯神社、祇園神社が移祀されている。

現在七月二十四日は、夏越祭の中日で駄祈禱の意味も含めて、子ども相撲が盛大に行われている。古老の説によれば、この社は貞治元年（一三六二）の頃、太宰府より勧請したという。



鹿子の木

大隈御霊神社の境内に向って、右側の斜面の土堤にある。

この鹿子の木は、幹廻り一・一〇m、樹高一二m、



樹令は不詳で、大木とはいえないが、珍らしい樹として、昭和五九年四月六日粕屋町の文化財に指定された。

鹿子の木は温暖な地方に育成し、高さ一五mにも達する常緑高木で、樹皮の剝たあとが白く、あたかも鹿の子模様となるので、『鹿子の木』の名称がある。雌雄異株で、黄色い小さな花が八、九月頃葉の付根に群がってつく。実は直径七、八ミリの球形で、はじめ緑色、翌年の夏赤く熟す。

粕屋町では、この御霊神社のほか、大隈の竹林の中、仲原小学校などに数本ある。

部木八幡宮

福岡市東区大字蒲田七九二番地にあり、祭神は、応神天皇・伊弉諾尊・神功皇后、玉依姫命である。

この八幡神社を地元では「部木の八幡さま」と呼んでいる。福岡市東

区蒲田、名子、粕屋町江辻、戸原の産神である。

祭神鎮座のはじめは、明確ではないが、部木、蒲田周辺には、古墳時代の遺跡が多く、また江辻の宮町、榎町あたりからは、弥生時代初期の土器、石器が大量に見られていることなどから、古墳時代にはすでに土地の守護神としての産神があったのではないかと考えられる。

部木の八幡さまは、はじめは韓国からの渡来人をも含めて土地の人々の産神であったと思われる。それは、本殿の右側にある社、今は合併神社と呼んでいる貴船神社には、高麗神も祀られていて、その祭神は、素戔鳴尊、殖安神（土を守護する神）、豊玉姫神、高麗神、閻魔神、菅原神などがあることからもうかがえる。

貞治元年（一三六二）長者原の合戦の際、大友氏が敗戦のどさくさで、この付近の寺社を焼きはらったが、幸運にもこの八幡宮は難をのがれている。

境内には、主として元禄時代から宝永年間にかけて、氏子などの有志から寄進された鳥居・石燈籠・手洗鉢・石の階段・鐘などがあり、昔は、九月の例祭に流鏝馬も行われ、馬場（神社の南側）の一町ばかりのところには神池（放生池）もあり『田舎にては頗大社也』と筑前統風土記には書き残されている。

